

新東名高速道路 河内川橋工事 (その1)

ドボクの面白さを、古いもの、新しいもの、消えゆくもの、身近なものなどを通じて広くお伝えします。ウェブサイトとの連動企画です!

[絵]モリナガ・ヨウ / [文]溝淵 利明



今回は、新東名高速道路の河内川橋の神奈川県山北町に建設中の河内川橋に行ってきました。新東名高速道路は、山間に建設されることから、トンネルと橋梁が多く、河内川橋も急峻で深い谷に架かる橋です。橋梁の形式は鋼・コンクリート複合構造のバランスドアーチ橋で、橋長が771m、最大支間が220m、橋脚の高さが最大で約88mの長大橋です。取材に行った時は、下部工の基礎部分である大口径深礎杭の施工中でした。元々建設地点が急峻な谷合で、橋脚を施工するためのアプローチもできないことから、右岸側は橋脚建設地点まで約230mの工用トンネルを掘って、建設地点に高台(仮設構台)を構築して、基礎の施工を行っています。

河内川橋で行われている大口径深礎杭の施工法は、通常行われるように掘削したズリをクレーンなどで基礎上部に上げて、そこから搬出するのではなく、トンネルを構築して下から搬出していました。

左岸側は、橋脚建設地点までインクラインで工事車両をそのまま上げていました。インクラインに載せられる重量が90tということで、実車だったらこんな車両まで載せられそうですよとモリナガさんと共通の趣味である戦車模型の話で大変盛り上がりしました。皆さんはインクラインにどんなものを載せてみたいか想像してみてください。

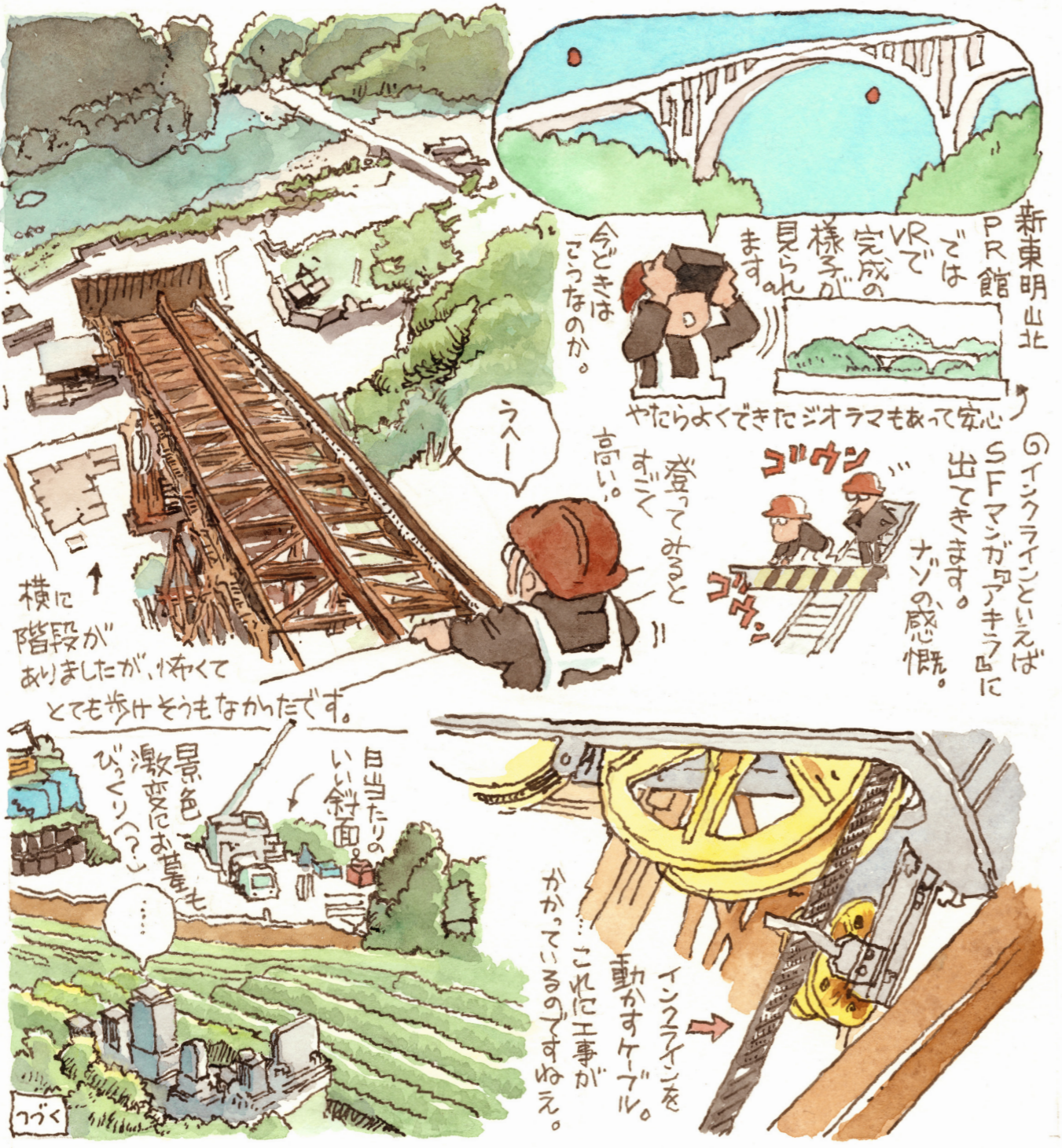
河内川橋の工事では、工用トンネルやインクラインなどの仮設設備満載の現場で、まるでダムの建設現場にいるのではないかと錯覚するくらいでした。

取材 「こぼれ話」

今回は、新東名高速道路の河内川橋工事の取材に行ってきました。河内川橋は、静岡県と山北町に近接する河内川に架かる鋼・コンクリート複合構造のバランスドアーチ橋です。現在は、下部工のうちの、橋脚基礎部の大口径深礎杭の施工を行っています。急峻で深い場所での下部工事のため、建設地点への導線確保のために右岸側は工用トンネルで対応しています。

左岸側は、橋下の県道から建設地点までインクラインを構築して資材の運搬などを行っています。インクラインといえば、琵琶湖疏水の終点近くの南禅寺・蹴上間の舟運が思い出されますが、以前、宮ヶ瀬ダム建設時の見学で、ダム天端から20tダンプをそのままコンクリート打込み地点まで運搬していたインクラインを見て度肝を抜かれたのを覚えています。その巨大で大胆な運搬方法を見て、これぞザ・土木だと思いました。この現場もそれを髣髴とさせる規模のものでした。

今回の取材時のこぼれ話として、新東名山北PR館で河内川橋の説明を受けてから、VRによる橋の完成後を体感できるメガネを装着したモリナガさんがVRを見ながらいきなり倒れこんだのはびっくりしてしまいました。(溝淵利明)



モリナガ・ヨウ 1966年生まれ。現場見学だけは経験値の高い文系イラストレーター。『築地市場 絵でみる魚市場の一日』で第63回産経児童出版文化賞受賞。みぞぶち・としあき 法政大学デザイン工学部教授、専門はコンクリート材料、維持管理(非破壊検査)等、モットーは「コンクリートの一生を考える」。